

## 平成24年度市民企画事業補助金 交付事業成果報告書

事業名	宇津木の森 再生プロジェクト 2012		
団体名	宇津木台 森遊会		
事業費	103,178 円	補助金額	100,000 円

事業の目的・内容	<p>目的</p> <p>広報はちおうじ等を通して公募することにより荒廃した雑木林の現状を伝え、問題意識を持った方々の参加を促します。</p> <p>市民が自ら参加することにより、地元の雑木林に親しみをもち、講座終了後も継続して整備に参加したり、雑木林を日々利用されることを狙いとします。</p> <p>講座修了者がさらに次年度の受講者を支援できるよう、人材を育成します。</p>
	<p>内容</p> <p>公募した市民が参加して、雑木林の整備を実践することによりその方法やノウハウを学びます。また、雑木林を活用してのアトラクションを体験します。これらを通して団体の活動をPRするとともに、市民の継続的な参加へ繋げてゆきます。</p> <p>年度で計5回の活動日を1セットの講座として約20名を募集します。</p> <p>講座の様子ならびに修了時の成果は市民に広く知っていただくために、随時、会のホームページで公開してゆきます。</p>

事業の活動実績	<p>事業年間計画の通り、計5回の講座を実施しました。但し、第3回10月予定は雨天のため11月実施となりました。</p> <p>第1回目、6月24日(日)参加者18名：笹刈りと森林散策を行いました。植物をはじめ、前日に仕掛けた昆虫トラップの回収や内視鏡を使っての巣箱内の観察を行いました。</p> <p>第2回目、7月22日(日)参加者16名：生垣の剪定、前回笹を刈ったエリアの遊歩道設置、お昼に流し素麺とかき氷、シュロの葉で編むシュロバツタ作りを行いました。予め伐っておいた竹を使って流し素麺の桶や器、箸を自作しました。</p> <p>第3回目、11月25日(日)参加者15名：コンサートエリアの整備(土の撤去、周辺の除伐、階段の設置、枝の片付けなど)を行いました。晩秋の昼食(サンマ、おでん、焼きおにぎり)、スギの葉でリースづくりを習得しました。</p> <p>第4回目、12月23日(日)参加者15名：来年3月のコンサートに向け、階段の設置、ベンチ作りを行い、会場が完成しました。竹林の枯草除去、竹の間伐を行い箭を迎える準備が出来ました。近隣の農家からお礼に泥ねぎをいただき、たき火で焼いていただきました。参加者が持ち寄った具材で大量のトン汁ができましたが完食しました。ミニ門松は個性豊かなものが続々と完成し、お正月の準備が整いました。</p> <p>第5回目、2月24日(日)参加者14名：今年一番の寒波と北風の中、野鳥観察会を行いました。緑地では残念ながら野鳥は出てきませんでしたが、多摩川では沢山の水鳥が観られました。春に向けて過去に設置した巣箱内の掃除も行いました。</p>
---------	--



第2回遊歩道設置



第4回ミニ門松作成

様式9 (2枚目)

事業の成果・効果	<p>1. 参加者の公募について</p> <p>広報はちおうじへの掲載は以下の2つの理由により見送りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金事業とのタイミングが合わず、掲載が最短で6月15日となり、講座開始の直前となってしまふこと</li> <li>・掲載内容には電話番号が必須でメールアドレスは不可となっており、受け付ける側として電話は現実的ではないこと</li> </ul> <p>このため参加申し込みは低調でしたが、森遊会のホームページや様々な会員サイト、スタッフによる口コミなどにより、近隣の住民など14名が講座に参加登録しました。</p> <p>2. 講座の実施について</p> <p>計5回の講座で整備（笹刈り、剪定、遊歩道設置、除伐、竹林）のみならずアトラクション（自然観察、シュロバツタ工芸、リースづくり、ミニ門松、野鳥観察など）を体験しました。</p> <p>尚、講座の予告と報告はすみやかに森遊会ホームページにて行いました。</p> <p>3. 事業の効果について</p> <p>講座に参加登録された14名のうち13名（遠方への転居1名を除く）が森遊会会員として登録し、次年度以降も活動に参加することとなりました。これにより森遊会会員は総勢44名となり、多彩な顔ぶれとなりました。新たな会員には3組の親子（小学生4名）が含まれます。</p> <p>活動の面では、整備方法やノウハウを学びましたので、安全で体力と力量に見合った活動が継続的にできます。アトラクションを体験したことにより、整備だけでなく、様々な楽しみ方を実感し、応用することで、継続してゆくモチベーションにつながっています。何よりも、事業を通じて近隣の住民が興味を持ってくれたことに対して、今後の展開に期待が持てるようになりました。</p>
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	<p>1 できた    2 概ねできた    3 あまりできなかった    4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由（3、4と答えた場合のみ）</p>
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	<p>1 できた    2 概ねできた    3 あまりできなかった    4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由（3、4と答えた場合のみ）</p>
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	<p>1 ほとんど同じ    2 多少の変更があった    3 大幅に変更している</p> <p>主な理由（2、3と答えた場合のみ）</p>
	その他、評価すべき点等	<p>講座参加者は定例活動（5回の講座以外）にも参加しており、この活動への理解が見られました。</p>

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	<p>参加者の公募は森遊会のホームページや様々な会員サイト、スタッフによる口コミによるところが大きく、また、必要な道具は基本的なものが揃ったことから、次年度は補助金の申請は行わず、現状の体制で継続することとします。</p> <p>次年度は定例活動（5回の講座以外）で実施した、竹の器を使った料理、炭焼き、応急処置講座、ビオトープ作り、森のコンサートなどを講座に取り入れてゆきます。</p>
---------	--